

令和6年度産業経済研究委託事業(S Xの普及促進に関わる調査)報告書

日本経済新聞社

1. SXの普及に向けた調査の結果概要・・・ P.2-P.12
2. シンポジウムの結果概要・・・・・・・・ P.13-P.42
3. 今後のSXの実現への課題・SX銘柄制度の在り方・・・ P.43
4. 二次利用未承諾リスト・・・・・・・・ P.44

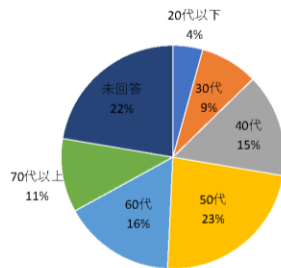
SX普及に向けた調査の結果概要

NIKKEI

2024年 4月23日（火）～5月14日（火）実施
令和6年度 産業経済研究委託事業 SXの普及に関わる調査
【全調査対象者・属性】＊日本語登録者

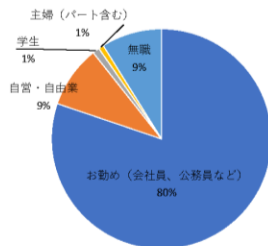
年代

項目名	件数
20代以下	17
30代	33
40代	59
50代	91
60代	64
70代以上	42
未回答	88
合計	394



職業・業種等（職業）

項目名	件数
お勤め(会社員、公務員など)	316
自営・自由業	36
学生	4
主婦(パート含む)	3
無職	35
合計	394



職業・業種等（業種）

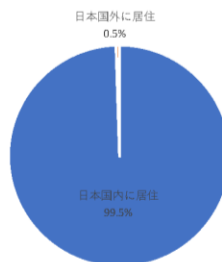
項目名	件数
電気・電子機器	24
食品・医薬・化粧品	17
建設	17
その他製造	14
卸売・小売業・商業(商社含む)	13
通信サービス	12
教育・教育学習支援関係	10
素材	10
運輸	9
自動車・輸送機器	9
放送・広告・出版・マスコミ	9
人材サービス	5
エネルギー	4
不動産	4
介護・福祉	3
機械・重電	3
公務員(教員を除く)	3
旅行	3
農林水産・鉱業	2
医療	1
飲食店・宿泊	1
その他	65
合計	394

職業・業種等（職種）

項目名	件数
経営企画	78
経営者・役員	69
企画・調査・マーケティング	47
営業・販売	28
専門職(会計関連)	16
広報・宣伝	10
一般事務	9
研究・開発	7
財務・経理	5
専門職(法律関連)	5
総務・人事	4
専門職(教育関連)	4
情報処理・情報システム	3
専門職(医療関連)	3
編集・編成・制作	2
技術・設計	1
専門職(建築・土木関連)	1
配送・物流	1
その他	101
合計	394

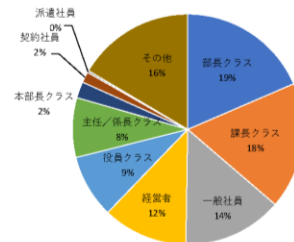
お住まいの地域

項目名	件数
日本国内に居住	392
日本国外に居住	2



職業・業種等（役職）

項目名	件数
部長クラス	73
課長クラス	70
一般社員	55
経営者	47
役員クラス	35
主任/係長クラス	33
本部長クラス	9
契約社員	6
派遣社員	1
その他	65
合計	394



職業・業種等（従業員規模）

項目名	件数
1～9人	73
10～49人	22
50～99人	17
100～299人	30
300～499人	20
500～999人	23
1,000～2,999人	45
3,000～4,999人	21
5,000～9,999人	35
10,000～19,999人	37
20,000人以上	71
合計	394

SXシンポジウム
の参加者への事
前調査・並びに事
後調査を実施

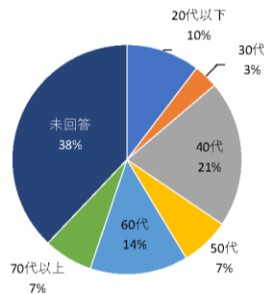
SX普及に向けた調査の結果概要

NIKKEI

2024年 4月23日（火）～5月14日（火）実施
令和6年度 産業経済研究委託事業 SXの普及に関わる調査
【全調査対象者・属性】 ＊英語登録者

年代

項目名	件数
20代以下	3
30代	1
40代	6
50代	2
60代	4
70代以上	2
未回答	11
合計	29



職業・業種等（業種）

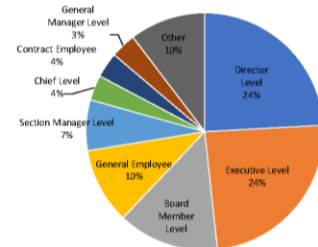
項目名	件数
Corporate Management/Board Member	10
Sales	3
Legal	2
Research & Development	2
Business Planning and Development	1
Education/Teaching	1
Finance & Accounting	1
IT, IT Systems,	1
Public Relations/Promotion	1
Others	7
合計	29

職業・業種等（職種）

項目名	件数
Finance, Securities, Insurance	13
Consulting, Accounting, Legal	5
Information Technology, SI, Software	4
Education & Learning Support	2
Communication Services	1
Others	4
合計	29

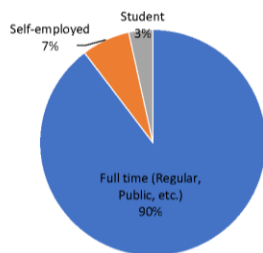
職業・業種等（役職）

項目名	件数
Director Level	7
Executive Level	7
Board Member Level	4
General Employee	3
Section Manager Level	2
Chief Level	1
Contract Employee	1
General Manager Level	1
Other	3
合計	29



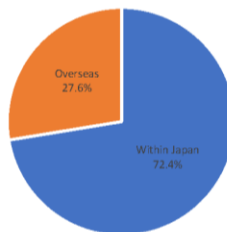
職業・業種等（職業）

項目名	件数
Full time (Regular, Public, etc.)	26
Self-employed	2
Student	1
合計	29



住まいの地域

項目名	件数
Within Japan	21
Overseas	8

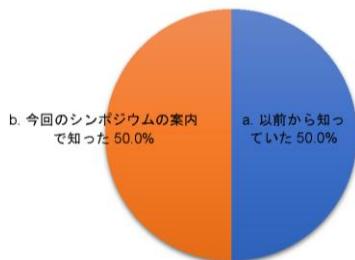


職業・業種等（従業員規模）

項目名	件数
1～9名	6
10～49名	4
100～299名	7
300～499名	2
500～999名	1
1000～2999名	2
3000～4999名	2
5000～9999名	3
10000～19999名	1
20,000名以上	1
合計	29

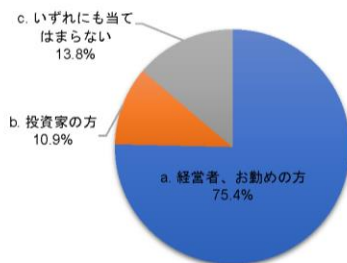
SX普及に向けた調査の結果概要

0. SX銘柄について知っていましたか？



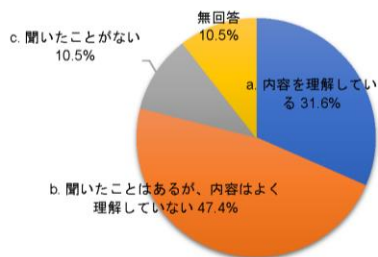
回答	人数	割合
a. 以前から知っていた	69	50.0%
b. 今回のシンポジウムの案内で知った	69	50.0%
合計	138	100%

1. 当てはまる職業をお選びください。



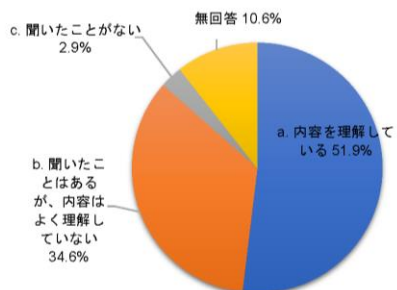
回答	人数	割合
a. 経営者、お勤めの方	104	75.4%
b. 投資家の方	15	10.9%
c. いずれにも当てはまらない	19	13.8%
合計	138	100%

2. 【Q1でcと回答した方向け】SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、知っていますか？（ESGやSDGsとの違いを理解していますか？）



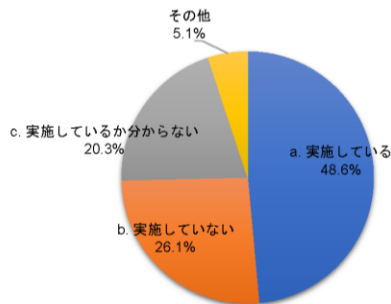
回答	人数	割合
a. 内容を理解している	6	31.6%
b. 聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	9	47.4%
c. 聞いたことがない	2	10.5%
無回答	2	10.5%
合計	19	100.0%

3. 【Q1でaと回答したお勤めの方向け】SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、知っていますか？（ESGやSDGsとの違いを



回答	人数	割合
a. 内容を理解している	54	51.9%
b. 聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	36	34.6%
c. 聞いたことがない	3	2.9%
無回答	11	10.6%
合計	104	100.0%

4. お勤め先でSXの取り組みは実施されていますか？



回答	人数	割合
a. 実施している	67	48.6%
b. 実施していない	36	26.1%
c. 実施しているか分からない	28	20.3%
その他	7	5.1%
合計	138	100%

その他の回答

SXに取り組んでいる企業に投資する側

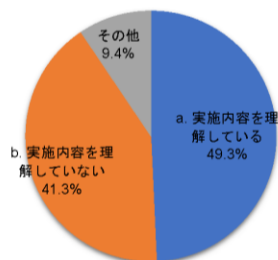
これから取り組みを行いたいと考えている

外資系企業なので日本における特別な取り組みは無い

取り組もうとしている

政府機関のため直接的なSXの取り組みから外れる

5. お勤め先におけるSXの取り組み内容を理解していますか？



回答	人数	割合
a. 実施内容を理解している	68	49.3%
b. 実施内容を理解していない	57	41.3%
その他	13	9.4%
合計	138	100.0%

その他の回答

4月に入社したので勉強中です。

SXの取り組みは実施していない 5件

一部は理解しているが

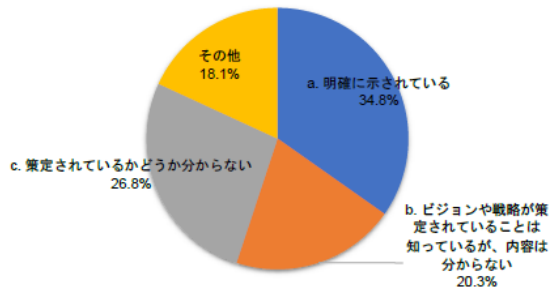
外資系企業なので日本における特別な取り組みは無い

取り組もうとしている

取組んでいないので、理解していない。

投資先企業のSXについて理解している。

6. SXの推進にあたり、ビジョンや戦略は示されていますか？



回答	人数	割合
a. 明確に示されている	48	34.8%
b. ビジョンや戦略が策定されていることは知っているが、内容は分からない	28	20.3%
c. 策定されているかどうか分からない	37	26.8%
その他	25	18.1%
合計	138	100.0%

その他の回答

SXの取り組みは実施していない

これから策定する 2件

そういった企業を評価する側（投資家）

ビジョンや戦略はあるが、不十分

外資系企業なので日本における特別な取り組みは無い

検討中 4件

見直し中

策定されているかどうか分からない

示されていない

示されているが十分ではない

示されているが、十分に体系立てられておらず戦略性に欠ける。

実施していないので

正式に策定できていない

投資先企業のビジョン・戦略を確認している

取組んでいないので、理解していない。

道半ば

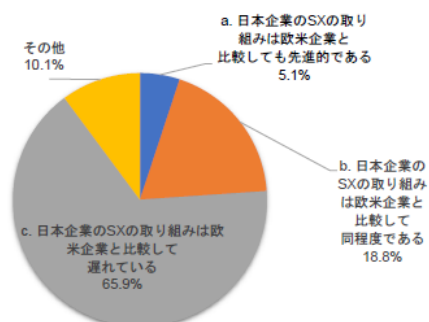
未だそういうことまで検討していない。

未実施

7. 差し支えない範囲で、お取り組み内容をお聞かせください。（回答任意）

未実施
トップから考え方は発信され、マテリアリティも選定・開示している
自社サービスが、SX/GX関連研修サービスを取り扱っている。
次期中期経営計画でのKPIの設定
持続的企業価値向上を目指すべく会社中期計画等にガバナンス、戦略、KPI等を設定
クライアント企業等へのSX戦略策定・実行支援
非財務情報を経営に活用するため、全社的なプロジェクトを組成。
SXを推進する企業に対してファイナンスでサポートするための戦略を公表し実践している。
製品・サービスを活用したテキスタイル市場の環境負荷低減、教育革新など、社会課題解決を念頭に置いた価値創出活動の拡大。
海洋環境保全、新燃料の活用等
特に環境分野においてCO2削減を経営戦略の本丸に置いている
製品・サービスの提供について社会課題解決を前提とした価値提供として企画・創出する取り組みを進めている。
準備段階
パーパス策定、浸透活動をしている
脱炭素戦略の推進とSDG' 〓 営業開拓
方針を作成し、社内外に公表。サステナビリティ委員により具体的な施策を年ごとに実施している。

8. 欧米企業と比較して、日本企業のSXの取り組みをどう評価していますか？

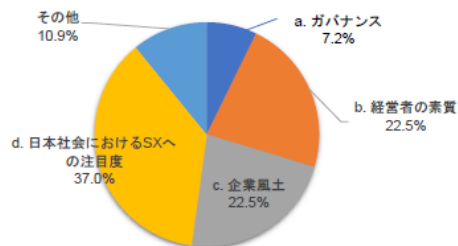


回答	人数	割合
a. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較しても先進的である	7	5.1%
b. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して同程度である	26	18.8%
c. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れている	91	65.9%
その他	14	10.1%
合計	138	100.0%

その他の回答
SXとしては言葉として理解していないが、企業の持続性は考えている。
欧米・日本ともに先進的な企業と遅れている企業があり、一概には言えない。
欧米企業がどのような取り組みをしているか、理解不足です。
欧米企業の取組みについて認識不十分のため比較できない
各国とも跛行あり
個々の企業による
進んでいる部分と遅れている部分が混在しているし、また欧州と米国でも差がある。
比較した事が無い

SX普及に向けた調査の結果概要

9. なぜ日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れていると思いますか？



回答	人数	割合
a. ガバナンス	10	7.2%
b. 経営者の素質	31	22.5%
c. 企業風土	31	22.5%
d. 日本社会におけるSXへの注目度	51	37.0%
その他	15	10.9%
合計	138	100.0%

その他の回答

Monetary return

SXへの理解度

サステナビリティ対応から新しいビジネスモデルを組み込み 事業成長させるまでの戦略性への昇華には不得手な傾向。ナイキなどは上手い印象。また、日本企業は、「ジェンダー平等」など特定のターゲットを定めると皆一生懸命に取り組む。でも、根底にある平等意識やルールづくりなどにまではなかなか目が向かない。

近代からの歴史・政策

元々先行していた省エネからの延長線に留まっていたから

上記が複数組み合わせられている

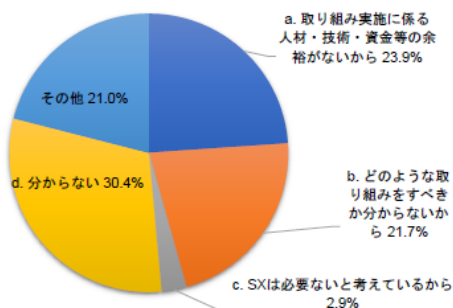
脱炭素などに向けた投資が価値として顧客に受け入れられるケースはまだ多くは無く、コストになってしまうことが理由の一つに挙げられるかと感じます。

遅れているとまでは思いませんが、より形式的な印象を受けています。

特に遅れているとは思わない 2件

跋行性

10. 現在、SXへの取り組みを実施していない理由をお聞かせください。



回答	人数	割合
a. 取り組み実施に係る人材・技術・資金等の余裕がないから	33	23.9%
b. どのような取り組みをすべきか分からないから	30	21.7%
c. SXは必要ないと考えているから	4	2.9%
d. 分からない	42	30.4%
その他	29	21.0%
合計	138	100%

その他の回答

SXへの取り組みはしているかもしれないが、SXという言葉は使っていない。

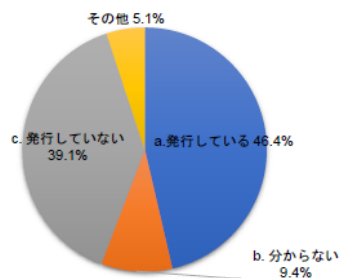
SX自体が多岐にわたり、どの取り組みが適切かわからない

財務目標に比較して優先度が低いから

取り組んでいるが人材などが十分ではない

取組みを始めたところである

11. お勤め先で統合報告書は発行していますか？



回答	人数	割合
a.発行している	64	46.4%
b. 分からない	13	9.4%
c. 発行していない	54	39.1%
その他	7	5.1%
合計	138	100%

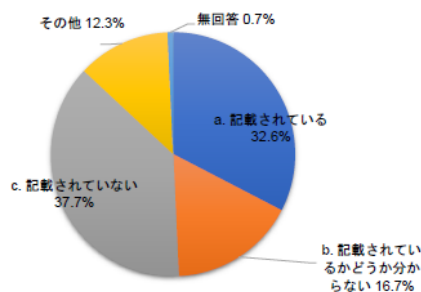
その他の回答

スチュワードシップレポートとして発行（投資家）

運用会社としてSSレポートは発行している。

今年度から発行予定 2件

12. 統合報告書の中に、自社のSXへの取り組み状況について記載されていますか？



回答	人数	割合
a. 記載されている	45	32.6%
b. 記載されているかどうか分からない	23	16.7%
c. 記載されていない	52	37.7%
その他	17	12.3%
無回答	1	0.7%
合計	138	100%

その他の回答

報告書はない 7件

記載されているいはいるが、十分に体系立てられておらず戦略性に欠ける。

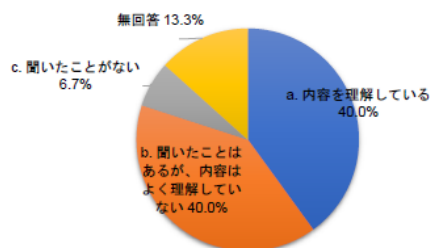
今年度から記載予定

昨年入社したばかりで、分からない。

本年度発行を計画している統合報告書に含む予定

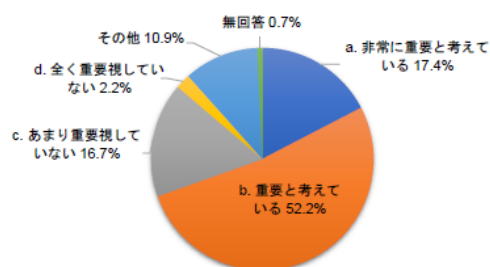
未実施

13. 【Q1でbと回答した投資家の方向け】SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）とは何か、知っていますか？ （ESGやSDGsとの違いを理解していますか？）



回答	人数	割合
a. 内容を理解している	6	40.0%
b. 聞いたことはあるが、内容はよく理解していない	6	40.0%
c. 聞いたことがない	1	6.7%
無回答	2	13.3%
合計	15	100%

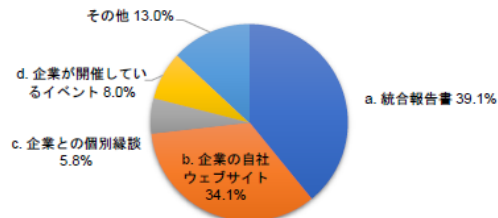
14. 投資先を判断するにあたり、SXへの取り組みはどの程度重要視されていますか？ よろしければ、その他欄に理由をご記入 下さい。



回答	人数	割合
a. 非常に重要と考えている	24	17.4%
b. 重要と考えている	72	52.2%
c. あまり重要視していない	23	16.7%
d. 全く重要視していない	3	2.2%
その他	15	10.9%
無回答	1	0.7%
合計	138	100%

理由
コンプライアンスや道徳感、理念のない経営は組織を根底から支えられず投資しても社会的価値を得られず評価されないし、投資した者の信頼も将来的に失われるだろう。結果、総じて持続可能でなくなると感じている。
企業がメガトレンドを見据え、長期視点で経営を行っているか判断する材料になるため
その他の回答
今後重視したい。
将来性を鑑みると重要だと思うが、時代の風潮で終わるのではないかと、懸念がある。

15. 投資先を判断する際、企業のSXへの取り組み状況についてどのような手段で情報を収集していますか？



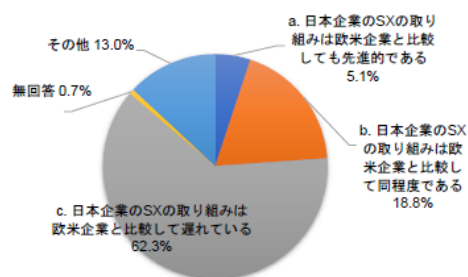
回答	人数	割合
a. 統合報告書	54	39.1%
b. 企業の自社ウェブサイト	47	34.1%
c. 企業との個別縁談	8	5.8%
d. 企業が開催しているイベント	11	8.0%
その他	18	13.0%
合計	138	100%

その他の回答

ESG評価機関の格付け

情報収集していない 3件

16. 欧米企業と比較して、日本企業のSXの取り組みをどう評価していますか？



回答	人数	割合
a. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較しても先進的である	7	5.1%
b. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して同程度である	26	18.8%
c. 日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れている	86	62.3%
無回答	1	0.7%
その他	18	13.0%
合計	138	100%

その他の回答

欧米・日本ともに先進的な企業と遅れている企業があり、一概には言えない。

欧米企業の取組みについて認識不十分のため比較できない

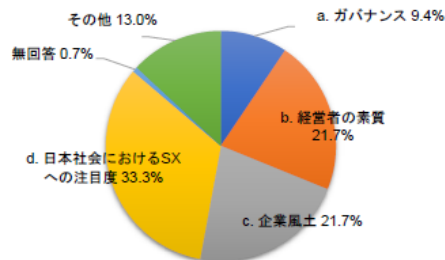
個々の企業による

進んでいる部分と遅れている部分が混在しているし、また欧州と米国でも差がある。

比較した事がない

名前こそ違え、それなりにやっていると思う。

17. なぜ日本企業のSXの取り組みは欧米企業と比較して遅れていると思いますか？



回答	人数	割合
a. ガバナンス	13	9.4%
b. 経営者の素質	30	21.7%
c. 企業風土	30	21.7%
d. 日本社会におけるSXへの注目度	46	33.3%
無回答	1	0.7%
その他	18	13.0%
合計	138	100%

その他の回答

SXへの理解度

元々先行していた省エネからの延長線に留まっていたから

言葉上の違いであってそれなりにやっていると思う。

遅れているとまでは思いませんが、より形式的な印象を受けています。

遅れていない



2024年5月24日(金) 13:00-17:50
May 24th, 2024 (Friday) 13:00-17:50

実施報告書

2024年5月24日（金）

日本経済新聞社

- 【 名 称 】 SXシンポジウム～SX推進の未来と企業価値創造～
- 【 開 催 日 時 】 2024/5/24(金) 13:00～17:50
- 【 会 場 】 イイノホール
(東京都千代田区内幸町2-1-1 飯野ビルディング4階)
- 【 主 催 】 経済産業省
- 【 共 催 】 東京証券取引所
- 【 協 力 】 日本経済新聞社
- 【 開 催 形 態 】 会場聴講
- 【 参 加 費 】 無料

区分	出席者数
最終登録者数	411名 (日本語：384名、英語：27名)
来場者数	299名 (日本語：206名、英語: 20名)

TIME	内容	
12:37～12:43	■フォトセッション ／銘柄企業＋伊藤委員長＋経済産業省＋東京証券取引所 ①12:37～12:39 大臣・副大臣・東証・伊藤先生・受賞企業集合写真（RoomA1+2） ②12:39～12:43 大臣・副大臣・東証・伊藤先生＋5社受賞企業での個別撮影（RoomA3）	
13:00～13:10	■主催者・共催者挨拶 ／経済産業副大臣 上月 良祐（こうづき・りょうすけ）氏	
	／東京証券取引所 常務執行役員 川井 洋毅（かわい・ひろき）氏	
13:10～13:40	■総評 ／SX銘柄評価委員長／一橋大学 CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄（いとう・くにお）氏	

●13:10～13:40 総評時詳細

【参加者】

上月副大臣、川井氏、伊藤氏、選定企業15社→全員開演前にステージ上自席に板付き

【構成】

- ①伊藤氏より総評、選定企業講評
- ②上月副大臣より選定企業へ認定証授与～写真撮影（15社分）

TIME	内容	
13:40～15:20	■選定企業の会長・社長による事例プレゼンテーション※各社プレゼン(15分)+伊藤氏と対談(5分)	
	<<13:40～14:00>> /日立製作所 取締役会長 代表執行役 東原 敏昭（ひがしはら・としあき）氏	
	<<14:00～14:20>> /日本航空 代表取締役社長執行役員 鳥取 三津子（とっとり・みつこ）氏	
	<<14:20～14:40>> /第一三共 代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員 奥澤 宏幸（おくざわ・ひろゆき）氏	
	<<14:40～15:00>> /東京応化工業 代表取締役社長 兼 執行役員社長 種市 順昭（たねいち・のりあき）氏	
	<<15:00～15:20>> /ブリヂストン 取締役 代表執行役 Global CEO 石橋 秀一（いしばし・しゅういち）氏	
15:20～15:40	/SX銘柄評価委員長/一橋大学 CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄（いとう・くにお）氏	
	■休憩	

TIME	内容
15:40～16:40	■日米スペシャルセッション
	＜ご挨拶＞ ／在日米国大使館 商務担当公使 アラン・ターリー 氏 
	＜パネリスト＞ ／オムロン 執行役員常務 グローバルコーポレートコミュニケーション&エンゲージメント本部長 兼 サステナビリティ推進担当 井垣 勉（いがき・つとむ）氏 
	／りそなアセットマネジメント 責任投資部 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 松原 稔（まつばら・みのる）氏 
	／J.P.モルガン・アセット・マネジメント サステナブル・インベスティング・ チーム ストラテジスト 島田 知実（しまだ・ともみ）氏 
	／マイクロソフト 最高サステナビリティ責任者 メラニー ナカガワ 氏 
	＜モデレーター＞ ／米国商務省 ファイナンス アンド プロフェッショナルサービス オフィス リスク・ 保険・プロフェッショナルサービス チームリーダー パトリック ジメット 氏 
16:40～16:50	■閉会～ネットワーキング会場移動
16:50～17:50	■ネットワーキング ※一般聴講者参加可能



Please fill out the questionnaire
アンケートへご協力ください

開催日 Date 2024/5/24 (金) May 24th (Friday), 2024 開催時間 Time 13:00~17:50

13:00~13:10 主催者・共催者挨拶 Greetings from Organizer and Co-organizer

経済産業省 Ministry of Economy, Trade and Industry

東京証券取引所 常務執行役員 川井 洋毅氏

Mr.Hiroki Kawai, Managing Executive Officer, Tokyo Stock Exchange

13:10~13:40 総評 General Review

SX 銘柄評価委員長／一橋大学 CFO 教育研究センター長 伊藤 邦雄氏

Mr.Kunio Ito, Chairman of SX Brand Evaluation Committee/Director of CFO Education and Research Center,
Hitotsubashi University

—授与 Awarding—

13:40~15:20 選定企業の会長・社長による事例プレゼンテーション Case presentations by CEOs

13:40~14:00 日立製作所 取締役会長 代表執行役 東原 敏昭氏

Mr.Toshiaki Higashihara, Director, Executive Chairman, Representative Executive Officer, Hitachi

14:00~14:20 日本航空 代表取締役社長執行役員 グループ CEO 鳥取 三津子氏

Ms.Mistuko Tottori, Representative Director, President Chief Executive Officer, Japan Airlines

14:20~14:40 第一三共 代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員 奥澤 宏幸氏

Mr.Hiroyuki Okuzawa, Representative Director, President and COO, President and Executive Officer,
DAIICHI SANKYO COMPANY

14:40~15:00 東京応化工業 代表取締役 取締役社長 兼 執行役員社長 種市 順昭氏

Mr.Noriaki Taneichi, Representative Director, President and Executive Officer, TOKYO OHKA KOGYO

15:00~15:20 プリヂストン 取締役 代表執行役 Global CEO 石橋 秀一氏

Mr.Shuichi Ishibashi, Member of the Board, Global CEO and Representative Executive Officer, Bridgestone

15:20~15:40 休憩 Break

15:40～16:40 日米スペシャルセッション

Japan-US Special Session

<ご挨拶 Greetings>

在日米国大使館 商務担当公使 アラン・ターリー氏

Mr.Alan R.Turley, Minister Counselor for Commercial Affairs,U.S. Embassy in Tokyo, Japan

<パネリスト Pannelist>

オムロン 執行役員常務 グローバルコーポレートコミュニケーション&エンゲージメント本部長 兼 サステナビリティ推進担当 井垣 勉氏

Mr.Tsutomu Igaki, Managing Executive Officer Senior General Manager, Global Corporate Communications & Engagement HQ and Sustainability Executive, OMRON Corporation

リソナアセットマネジメント 責任投資部 チーフ・サステナビリティ・オフィサー 松原 稔氏

Mr.Minoru Matsubara, Chief Sustainability Officer,Responsible Investment Department Resona Asset Management

J.P.モルガン・アセット・マネジメント サステナブル・インベスティング・チーム ストラテジスト

島田 知実氏

Ms.Tomomi Shimada, Lead Sustainable Investing Strategist for APAC, JP Morgan Asset Management

マイクロソフト 最高サステナビリティ責任者 メラニー ナカガワ氏

Ms.Melanie Nakagawa, Chief Sustainability Officer, Microsoft

<モデレーター Moderator>

米国商務省 ファイナンス アンド プロフェッショナルサービス オフィスリスク・保険・プロフェッショナルサービス チームリーダー パトリック ジメット氏

Mr.Patrick Zimet, Team Lead, Risk, Insurance, and Professional Services, Office of Finance and Professional Services,U.S. Department of Commerce

16:50～17:50 ネットワーキング

Networking

※プログラム、講演内容は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。

*Please note that the program and content of the presentations are subject to change without notice.

告知原稿

2024年4月24日（水）朝刊 5段モノクロ

SXシンポジウム

～SX推進の未来と企業価値創造～

持続可能性を基本にした、経営の在り方を革新する新たな戦略、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）は、国
際社会において日本企業が持続的に成長し、企業価値向上を実現するための大きな鍵です。この度、経済産業省及び東京証
券取引所は「SX銘柄2024」を選定しました。本シンポジウムでは、選定企業による事例プレゼンテーション、パネルディス
カッションなどを通して、SX推進の先に見える未来について考えます。

SX銘柄2024
Sustainability Transformation

< SX銘柄2024 選定企業 >

味の素 オムロン キリンホールディングス KDDI 第一三共	ダイキン工業 東京エレクトロン 東京応化工業 日本航空 日立製作所	富士フイルムホールディングス プリタストン 三井物産 明治ホールディングス ユニ・チャーム
--	---	---

2024
5月24日(金) 12:30 開場
13:00 開演

会 場：イイノホール（東京都千代田区千代田2-1-1 低野ビルディング4階）
主 催：経済産業省 共 催：東京証券取引所
協 力：日本経済新聞社

参加費 無料 **リアル開催** **申し込み 締め切り 5月20日(月)**

詳細・お申し込みはこちらから
日程 SXシンポジウム 検索 <https://events.nikkei.co.jp/00852/>

お問い合わせ：SXシンポジウム事務局 <https://conf1.nep-seo.jp/form/dXYfG0>

プログラム

13:00～13:10 主催者挨拶 伊藤 雅之 氏
13:10～13:40 座 評 伊藤 雅之 氏
13:40～15:20 選定企業の 企業・社員による 事例プレゼンテーション
SX銘柄評価委員長／一人ひとりのCFO 教育研究センター長 伊藤 雅之 氏
日立製作所 取締役会長 代表執行役 日立製作所 取締役会長 代表執行役 伊藤 雅之 氏
第一三共 代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員 伊藤 雅之 氏
東京応化工業 代表取締役取締役社長 兼 執行役員社長 伊藤 雅之 氏
プリタストン 取締役 代表取締役 Global CEO 伊藤 雅之 氏

15:20～15:40 休 憩
15:40～16:40 日米スベリアルセッション
オムロン 執行役員兼 グローバル・レポートコミュニケーションズ エンゲージメント・ガバナンス・サステナビリティ推進担当 伊藤 雅之 氏
のモータースポーツ・マシナリ・責任投資 伊藤 雅之 氏
マイクロナット 最高サステナビリティ責任者 伊藤 雅之 氏
J.P.モルガン・アセット・マネジメント 伊藤 雅之 氏
サステナブル・インベストメント・チーム ストラテジスト 伊藤 雅之 氏
【モレーター】米国投資 伊藤 雅之 氏
リスク・保険・プロフェッショナルサービス チームリーダー 伊藤 雅之 氏

16:50～17:50 ネットワーキング

2024年5月9日（木）朝刊 5段モノクロ

SXシンポジウム

～SX推進の未来と企業価値創造～

持続可能性を基本にした、経営の在り方を革新する新たな戦略、SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）は、国
際社会において日本企業が持続的に成長し、企業価値向上を実現するための大きな鍵です。この度、経済産業省及び東京証
券取引所は「SX銘柄2024」を選定しました。本シンポジウムでは、選定企業による事例プレゼンテーション、パネルディス
カッションなどを通して、SX推進の先に見える未来について考えます。

SX銘柄2024
Sustainability Transformation

< SX銘柄2024 選定企業 >

味の素 オムロン キリンホールディングス KDDI 第一三共	ダイキン工業 東京エレクトロン 東京応化工業 日本航空 日立製作所	富士フイルムホールディングス プリタストン 三井物産 明治ホールディングス ユニ・チャーム
--	---	---

2024
5月24日(金) 12:30 開場
13:00 開演

会 場：イイノホール（東京都千代田区千代田2-1-1 低野ビルディング4階）
主 催：経済産業省 共 催：東京証券取引所
協 力：日本経済新聞社

参加費 無料 **リアル開催** **申し込み 締め切り 5月20日(月)**

詳細・お申し込みはこちらから
日程 SXシンポジウム 検索 <https://events.nikkei.co.jp/00852/>

お問い合わせ：SXシンポジウム事務局 <https://conf1.nep-seo.jp/form/dXYfG0>

プログラム

13:00～13:10 主催者挨拶 伊藤 雅之 氏
13:10～13:40 座 評 伊藤 雅之 氏
13:40～15:20 選定企業の 企業・社員による 事例プレゼンテーション
SX銘柄評価委員長／一人ひとりのCFO 教育研究センター長 伊藤 雅之 氏
日立製作所 取締役会長 代表執行役 日立製作所 取締役会長 代表執行役 伊藤 雅之 氏
第一三共 代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員 伊藤 雅之 氏
東京応化工業 代表取締役取締役社長 兼 執行役員社長 伊藤 雅之 氏
プリタストン 取締役 代表取締役 Global CEO 伊藤 雅之 氏

15:20～15:40 休 憩
15:40～16:40 日米スベリアルセッション
オムロン 執行役員兼 グローバル・レポートコミュニケーションズ エンゲージメント・ガバナンス・サステナビリティ推進担当 伊藤 雅之 氏
のモータースポーツ・マシナリ・責任投資 伊藤 雅之 氏
マイクロナット 最高サステナビリティ責任者 伊藤 雅之 氏
J.P.モルガン・アセット・マネジメント 伊藤 雅之 氏
サステナブル・インベストメント・チーム ストラテジスト 伊藤 雅之 氏
【モレーター】米国投資 伊藤 雅之 氏
リスク・保険・プロフェッショナルサービス チームリーダー 伊藤 雅之 氏

16:50～17:50 ネットワーキング

■受付風景



■会場内



■フォトセッション(12:37～12:43)

会場内



集合写真



■フォトセッション(12:37～12:43)

東原 敏昭氏
日立製作所
取締役会長 代表執行役



鳥取 三津子氏
日本航空
代表取締役社長執行役員 グループCEO



種市 順昭氏
東京応化工業
代表取締役 取締役社長 兼 執行役員社長



石橋 秀一氏
ブリヂストン
取締役 代表執行役 Global CEO



奥澤 宏幸氏
第一三共
代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員



■主催者・共催者挨拶(13:00～13:10)

上月 良祐氏
経済産業省副大臣



川井 洋毅氏
東京証券取引所 常務執行役員



■総評(13:10～13:40)

伊藤 邦雄氏
 SX銘柄評価委員長／
 一橋大学 CFO 教育研究センター長



■認定証授与

東原 敏昭氏
日立製作所
取締役会長 代表執行役



鳥取 三津子氏
日本航空
代表取締役社長執行役員 グループCEO



種市 順昭氏
東京応化工業
代表取締役 取締役社長 兼 執行役員社長



石橋 秀一氏
ブリヂストン
取締役 代表執行役 Global CEO



奥澤 宏幸氏
第一三共
代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員



佐々木 達哉氏
味の素
取締役 執行役専務 コーポレート本部長



井垣 勉氏
オムロン
常務執行役員



藤川宏氏
キリンホールディングス
常務執行役員CSV戦略部長



最勝寺 奈苗氏
KDDI
執行役員常務CFOコーポレート統括本部長



宮住 光太氏
ダイキン工業
執行役員
コーポレートコミュニケーション担当



長久保 達也氏
東京エレクトロン
コーポレートオフィサー専務執行役員
Global Business Platform本部長



吉澤 ちさと氏
富士フイルムホールディングス
取締役・執行役員
コーポレートコミュニケーション部長兼
ESG推進部長



佐藤 理氏
三井物産
代表取締役専務執行役員
CSO(チーフ・ストラテジー・オフィサー)



古田 純氏
明治ホールディングス
取締役専務執行役員
CSO(Chief Sustainability Officer)



上田 健次氏
ユニ・チャーム
上席執行役員ESG本部長



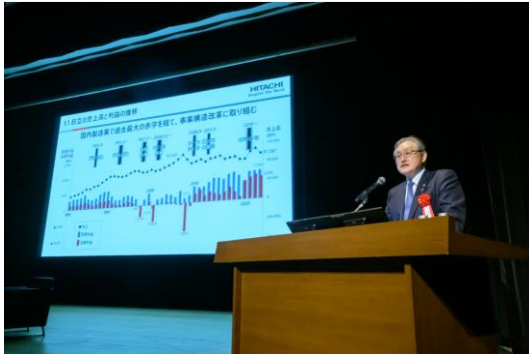
■選定企業の会長・社長による事例プレゼンテーション

13:40~14:00

東原 敏昭氏

日立製作所

取締役会長 代表執行役



14:00~14:20

鳥取 三津子氏

日本航空

代表取締役社長執行役員 グループCEO



14:20~14:40

奥澤 宏幸氏

第一三共

代表取締役社長 兼 COO 社長執行役員



14:40~15:00

種市 順昭氏

東京応化工業

代表取締役 取締役社長 兼 執行役員社長



15:00~15:20

石橋 秀一氏

ブリヂストン

取締役 代表執行役 Global CEO



伊藤 邦雄氏

SX銘柄評価委員長／

一橋大学 CFO 教育研究センター長

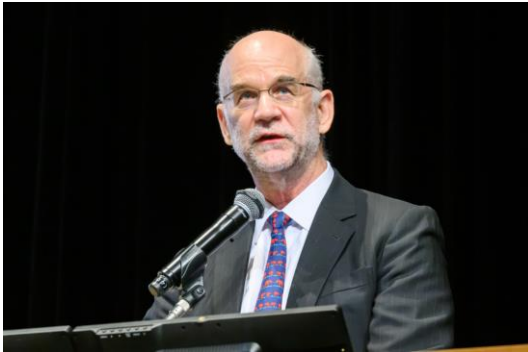


■休憩 (15:20~15:40)

■日米スペシャルセッション(15:40~16:40)

<ご挨拶>

アラン・ターリー氏
在日米国大使館 商務担当公使



<パネリスト>

井垣 勉氏
オムロン 執行役員常務 グローバルコーポレート
コミュニケーション&エンゲージメント本部長 兼
サステナビリティ推進担当



<パネリスト>

松原 稔氏
りそなアセットマネジメント
責任投資部 チーフ・
サステナビリティ・オフィサー



<パネリスト>

島田 知実氏
J.P.モルガン・アセット・マネジメント
サステナブル・インベスティング・チーム
ストラテジスト



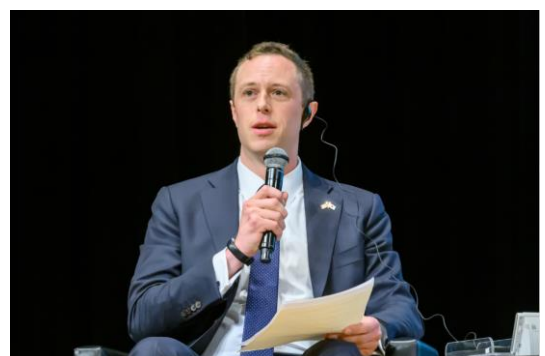
<パネリスト>

メラニー ナカガワ氏
マイクロソフト
最高サステナビリティ責任者



<モデレーター>

パトリック ジメット氏
米国商務省
ファイナンス アンド プロフェッショナルサービス
オフィスリスク・保険・
プロフェッショナルサービス チームリーダー



■ ネットワーキング(16:50～17:50)

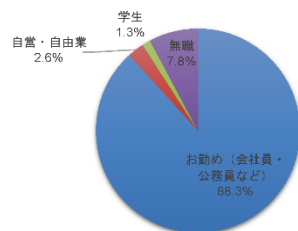


事後アンケート

2024年 5月24日（金）～5月26日（日）実施

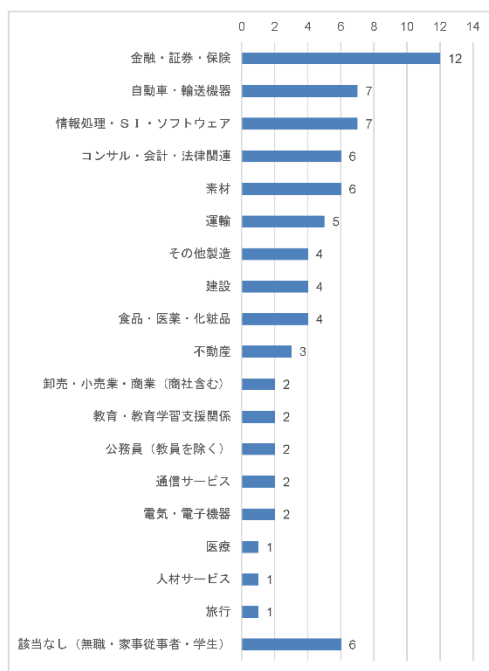
ご自身についてお伺いします。

1.職業



回答	人数	割合
お勤め（会社員・公務員など）	68	88.3%
自営・自由業	2	2.6%
学生	1	1.3%
無職	6	7.8%
合計	77	100%

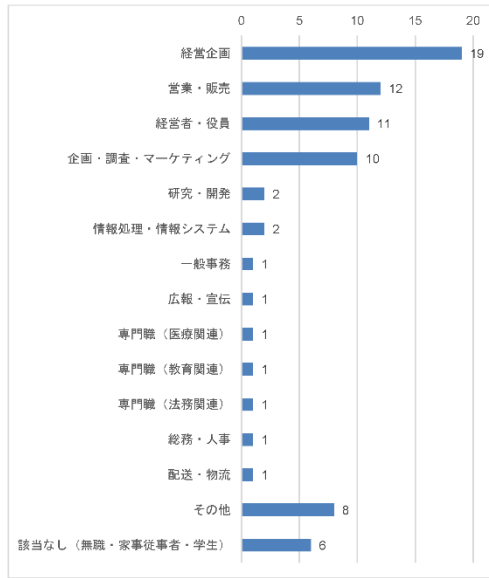
2.業種



回答	人数	割合
金融・証券・保険	12	15.6%
自動車・輸送機器	7	9.1%
情報処理・S I・ソフトウェア	7	9.1%
コンサル・会計・法律関連	6	7.8%
素材	6	7.8%
運輸	5	6.5%
その他製造	4	5.2%
建設	4	5.2%
食品・医薬・化粧品	4	5.2%
不動産	3	3.9%
卸売・小売業・商業（商社含む）	2	2.6%
教育・教育学習支援関係	2	2.6%
公務員（教員を除く）	2	2.6%
通信サービス	2	2.6%
電気・電子機器	2	2.6%
医療	1	1.3%
人材サービス	1	1.3%
旅行	1	1.3%
該当なし（無職・家事従事者・学生）	6	7.8%
合計	77	100%

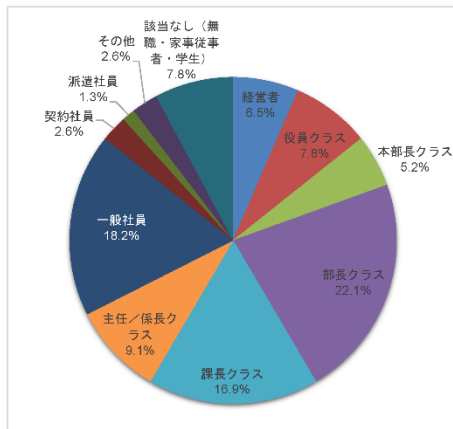
事後アンケート

3.職種



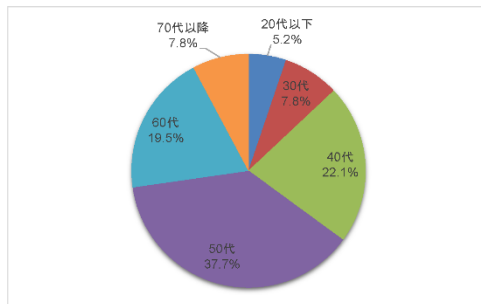
回答	人数	割合
経営企画	19	24.7%
営業・販売	12	15.6%
経営者・役員	11	14.3%
企画・調査・マーケティング	10	13.0%
研究・開発	2	2.6%
情報処理・情報システム	2	2.6%
一般事務	1	1.3%
広報・宣伝	1	1.3%
専門職（医療関連）	1	1.3%
専門職（教育関連）	1	1.3%
専門職（法務関連）	1	1.3%
総務・人事	1	1.3%
配送・物流	1	1.3%
その他	8	10.4%
該当なし（無職・家事従事者・学生）	6	7.8%
合計	77	100%

4.役職



回答	人数	割合
経営者	5	6.5%
役員クラス	6	7.8%
本部長クラス	4	5.2%
部長クラス	17	22.1%
課長クラス	13	16.9%
主任／係長クラス	7	9.1%
一般社員	14	18.2%
契約社員	2	2.6%
派遣社員	1	1.3%
その他	2	2.6%
該当なし（無職・家事従事者・学生）	6	7.8%
合計	77	100%

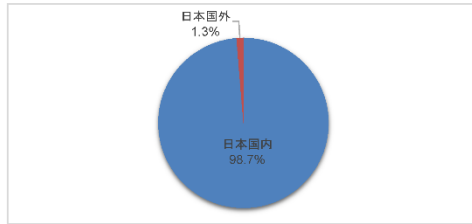
5.年代



回答	人数	割合
20代以下	4	5.2%
30代	6	7.8%
40代	17	22.1%
50代	29	37.7%
60代	15	19.5%
70代以降	6	7.8%
合計	77	100%

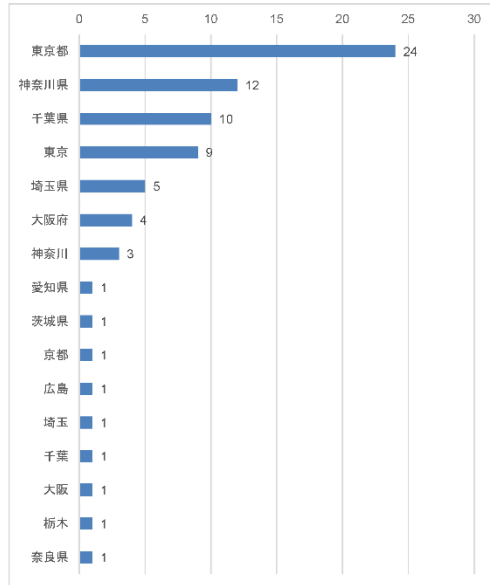
事後アンケート

6. お住いの地域



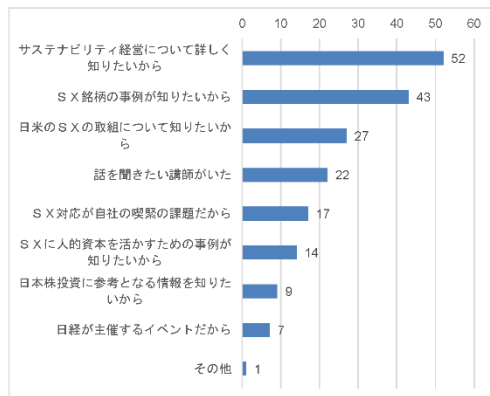
回答	人数	割合
日本国内	76	98.7%
日本国外	1	1.3%
合計	77	100%

7. お住まいの都道府県をご記入ください。



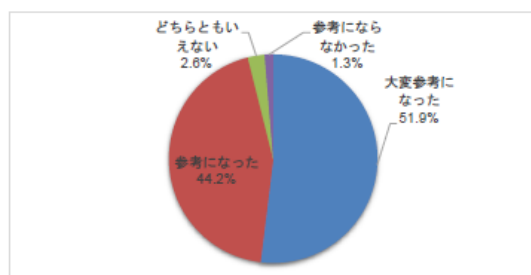
回答	人数	割合
東京都	24	31.6%
神奈川県	12	15.8%
千葉県	10	13.2%
東京	9	11.8%
埼玉県	5	6.6%
大阪府	4	5.3%
神奈川	3	3.9%
愛知県	1	1.3%
茨城県	1	1.3%
京都	1	1.3%
広島	1	1.3%
埼玉	1	1.3%
千葉	1	1.3%
大阪	1	1.3%
栃木	1	1.3%
奈良県	1	1.3%
合計	76	100%

8. 聴講理由を教えてください。(複数選択可) ※SX＝サステナビリティ・トランスフォーメーション



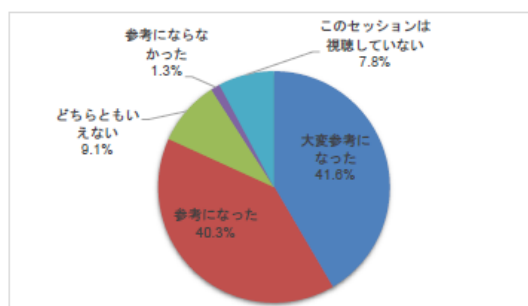
回答	人数	割合
サステナビリティ経営について詳しく知りたいから	52	27.1%
S X 銘柄の事例が知りたいから	43	22.4%
日米の S X の取組について知りたいから	27	14.1%
話を聞きたい講師がいた	22	11.5%
S X 対応が自社の喫緊の課題だから	17	8.9%
S X に人的資本を活かすための事例が知りたいから	14	7.3%
日本株投資に参考となる情報を知りたいから	9	4.7%
日経が主催するイベントだから	7	3.6%
その他	1	0.5%
合計	192	100%

9. 本日のイベント全体について、感想をお聞かせください。



回答	人数	割合
大変参考になった	40	51.9%
参考になった	34	44.2%
どちらともいえない	2	2.6%
参考にならなかった	1	1.3%
合計	77	100%

10. 各セッションに関する感想をお聞かせください。（総評）



回答	人数	割合
大変参考になった	32	41.6%
参考になった	31	40.3%
このセッションは視聴していない	6	7.8%
どちらともいえない	7	9.1%
参考にならなかった	1	1.3%
合計	77	100%

11. よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）

SX銘柄とTOPIX500の時価総額比較が新鮮であった。SX経営を概念的な体系化に終わらせず事業結果に結びつけていることがよくわかった。

様々な角度から総括的なコメントで大変参考になりました。

口頭だけであったので、資料を準備していただきたかった。

ポイントをついた解説とエビデンス

プレゼンテーションの裏側にある深みのある質問をして頂き、より理解が深まりました。質問力の凄さが勉強になりました。

各登壇者とのショートセッションでポイントを引き出してくれているのがよく伝わりました。

バックキャストして考える、という基本に立ち返ることができた

株価のパフォーマンスが興味深かったがTOPIXより日経平均との比較の方が妥当ではと感じた。

SX銘柄とTOPIX500のパフォーマンス比較を見せて頂いた事

ポイントが明確ですが！

SXシンポジウムの全体像が見えた。

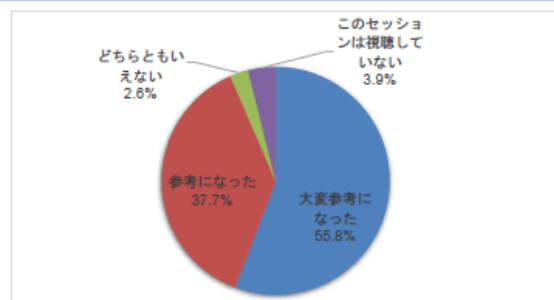
要点がまとまっていて非常にわかりやすかった。

すごい時間が短かったのですが、そのあとの各プレゼンターとの対話が良かったです。

頭の回転の良い方ですね。SX推進したいと思いました。

企業研究に精通されバランス良くステークホルダー目線でのご講評が良かった。

1 2. 各セッションに関する感想をお聞かせください。（選定企業の会長・社長による事例プレゼンテーション）

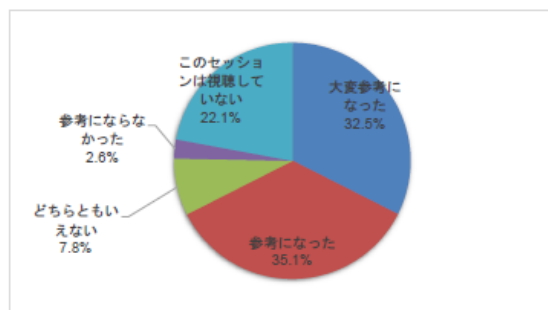


回答	人数	割合
大参考になった	43	55.8%
参考になった	29	37.7%
どちらともいえない	2	2.6%
このセッションは視聴していない	3	3.9%
合計	77	100%

1 3. よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）

SX経営を事業の戦略や基盤の全てに落とし込み、俯瞰的目つき有機的にその相関や効果を最大化することがいかに難しいかと思う中で、いずれの企業の経営者も見事までに体系化され、そして、アウトプットされていることに感銘を受けた
各社ピンチをチャンスに変革してきたのが印象的。TOK様の受賞も大変印象的。
各社さんとも人財、人的資本の大切さに力点が置かれている点に感心した。
経営要素を整えると共に、その関係性で自社らしさを構築していくことが参考になった
日立殿のお話、7800億円の赤字からの企業再生が、特に参考になりました。
企業価値向上に繋がる具体的な事例をお聞きできて、大変参考になりました。
日立製作所の東原様のプレゼンにて、コロナ禍で情報開示を積極的に行っていくことで、Transparencyを示して、Trustに繋げていったお話や、第一三共の社長の人的資本経営に関連して、Intelligent Failierを推奨しているお話はとても興味深く話を聞かせていただきました。
プレゼンターの違いと企業風土の関係性があるようで面白かった
プリズン社の統合報告書を見ます。
各々に強い思い入れが感じられた。伊藤先生とのやり取りをもう少し聞きたかった。
日立製作所東原会長の組織改革が参考になりました。
日立の東原会長のお話は、DEI推進の結果がガバナンス体制にも企業の今の姿、業績にも現れていて、説得力がありました。
日本航空のESG戦略を事業戦略の上位に位置付けている点が非常に面白い、本気度が違うと感じた。
企業purezenは判りやすい。特に東原社長JALを聞き人柄も含め応援したくなった
会長や社長の話が聞ける機会が少ないのでありがたかった。
各社の特徴が出ていて興味深かった
特に日立製作所様のプレゼンは、短い時間の中に沢山のポイントをまとめていただき、また、実際に改革を推進されたご経験に基づきとても現実的で大参考になった。
意志ある戦略とその実践に対する責任と覚悟
感銘を受けました。
各経営者の思想の違いを伺い知ることができた。
日立製作所 東原会長
お話が聞きやすかったです。

14. 各セッションに関する感想をお聞かせください。（日米スペシャルセッション）

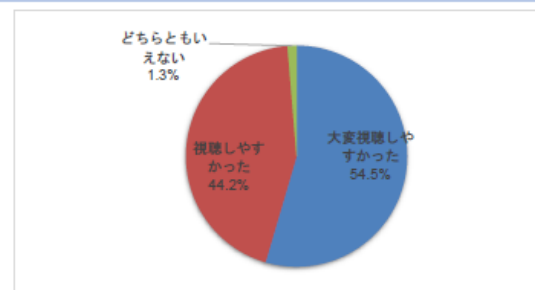


回答	人数	割合
大変参考になった	25	32.5%
参考になった	27	35.1%
どちらともいえない	6	7.8%
参考にならなかった	2	2.6%
このセッションは視聴していない	17	22.1%
合計	77	100%

15. よろしければ、具体的に感想をお聞かせください。（回答任意）

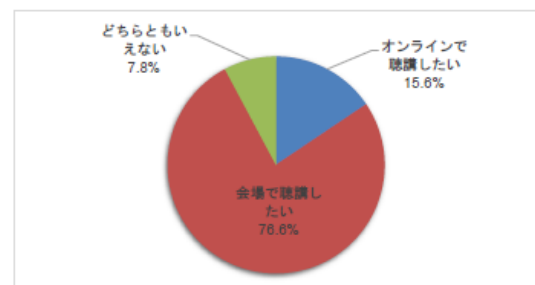
オムロンのサステナビリティとオポチュニティの話が大変勉強になった
米国の視点、また、運用会社の視点、多様なお話で良かったです。
創業の頃からの精神が受け継がれて、今のSX銘柄選定企業があること、ESGファイナンスを活用しながら成長していく重要性に納得感があつた。
伊藤先生 SXシンポ 継続お願いします
JPMAM島田さんのコメントが非常に印象深かった
短期的な視点と長期的な視点のバランスという観点が非常に重要だと感じた。将来にわたっての課題のため、今の時点で評価をするのはなかなか難しい問題等いことを改めて感じた。
企業の価値観が重要ということ

16. 今回の会場の視聴はいかがでしたか。



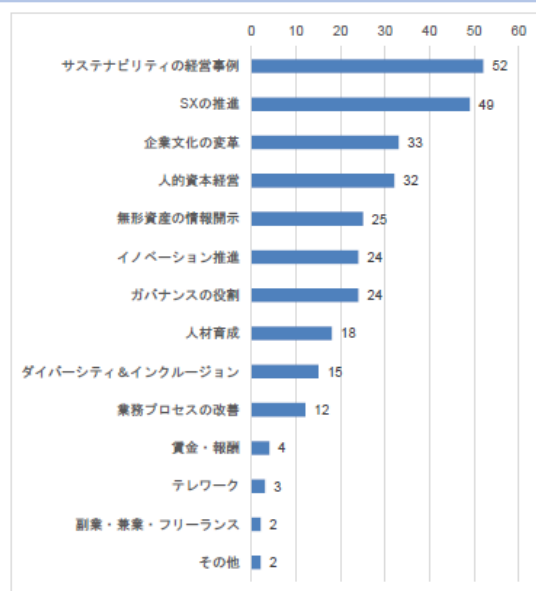
回答	人数	割合
大変視聴しやすかった	42	54.5%
視聴しやすかった	34	44.2%
どちらともいえない	1	1.3%
合計	77	100%

17. 今後のイベント聴講についてご意見をお聞かせください。



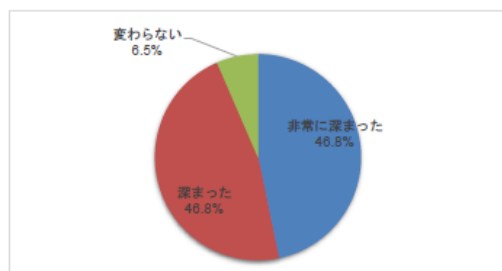
回答	人数	割合
オンラインで聴講したい	12	15.6%
会場で聴講したい	59	76.6%
どちらともいえない	6	7.8%
合計	77	100%

18. 今後シンポジウムで聞いてみたい内容をお選びください。(複数回答可)



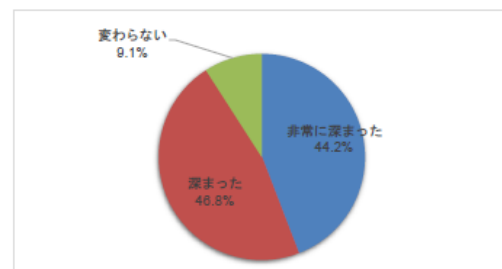
回答	人数	割合
サステナビリティの経営事例	52	17.6%
SXの推進	49	16.6%
企業文化の変革	33	11.2%
人的資本経営	32	10.8%
無形資産の情報開示	25	8.5%
イノベーション推進	24	8.1%
ガバナンスの役割	24	8.1%
人材育成	18	6.1%
ダイバーシティ&インクルージョン	15	5.1%
業務プロセスの改善	12	4.1%
賞金・報酬	4	1.4%
テレワーク	3	1.0%
副業・兼業・フリーランス	2	0.7%
その他	2	0.7%
合計	295	100%

19. 今回のシンポジウムをご覧いただき、SXについての理解・興味は深まりましたか。



回答	人数	割合
非常に深まった	36	46.8%
深まった	36	46.8%
変わらない	5	6.5%
合計	77	100%

20. 今回のシンポジウムをご覧いただき、SX銘柄についての理解・興味は深まりましたか。



回答	人数	割合
非常に深まった	34	44.2%
深まった	36	46.8%
変わらない	7	9.1%
合計	77	100%

21. その他、お気づきの点や今後知りたい情報などございましたらご自由にご記入ください。

会場からの質問を受け付けるような仕組みが欲しかった。表彰式（記念撮影含む）は、分けて開催でも良いと思った。

都合で後半は視聴できなかったため、配信をご案内いただけるのを待ちしています。

引き続き企業変革とSXシンポジウム継続開催をありがとうございました

日経IRも楽しみにしています。

(1) SX・SX銘柄の認知向上、正しい理解の促進

SXシンポジウム開催前に実施した「SX普及に向けた調査」によると、ビジネスパーソンのうち「SXとは何か」ということについてESG・SDGsとの違いも含めて正しく理解できていると回答した人は昨年から若干改善されたものの、約半数の51.9%に留まった。

SX銘柄については、「SX普及に向けた調査」によると、全回答者のうち「以前から知っていた」と回答した人、「今回のシンポジウムの案内で知った」と回答した人は、いずれも50%であり、SX銘柄の認知度が必ずしも高くない状況が明らかになった。

シンポジウム開催後の調査では、SXへの理解・興味が深まったと回答した人が93.5%、SX銘柄への理解・興味が深まったと回答した人も90.9%と、シンポジウムを通じて参加者の理解が深まる結果となった。

(2) SXの普及促進、SX銘柄制度の在り方

SXシンポジウム開催前に実施した「SX普及に向けた調査」によると、「勤め先でSXの取り組みを実施している」と回答した人は48.6%と半数を割り、「実施していない」と回答した人が26.1%となった。「勤め先のSXの取り組み内容を理解しているか」については49.3%が「理解している」、41.3%が「理解していない」という回答だった。また、「ビジョンや戦略が示されているか」については34.8%が「明確に示されている」、24%が「内容まではわからない」という回答だった。加えて、欧米企業との比較では、65.9%が「日本企業の方が取り組みが遅れている」と回答した。

シンポジウム開催後の調査では、SX銘柄企業のセッションを中心に、日米各講演者の具体的な自社の取り組みなどへの評価が高く、SX推進に対する理解がより深まったという声が寄せられ、シンポジウムがSXの普及促進を後押しできたことがうかがえる。今後、SX銘柄がベンチマークとなり、より多くの企業が積極的な取り組みを進めることでSXの実現を加速させていくためにも、このような情報発信の場を定期的に設けることが有用だと考える。

